

1. 活動報告（事務局 記）

- 6月1日（日）本日の活動は地域の農繁期も重なって10人の参加でした。たくさんの作業のうち木材置き場屋根の萱修復、池ゾーン浮島の作成仕上げ作業、止水池土手の抜取草の片付けを行ないました。参加された方は少人数でお疲れ様でした。又、合鴨との合同休憩時は大変癒しになりました。
- 6月1日（日）午後、支援団体地球温暖化防止キックオフイベントへ当会から6名参加しました。
- 6月7日（土）本日「きららネット子どもエコクラブ」の子どもさん25名スタッフ9名がビオトープで研修されました。当会から今井会長、田村副会長と原田マでご案内と善和のひびきの森でビオトープに棲息する絶滅危惧植物および動物と外来動植物の種類とそれらのエコアップについて講義を行ないました。
- 6月18日（水）代掻き及び蕎麦田の除草起こし 原田宗会員 機械提供とオペレータ
- 6月18日 一連の田植え準備 田んぼ均し（ならし）と畦仕上げ 原田マ
- 20日 同 綱張り、苗受け取り、テント準備 会長、原田賢、藤村、内藤、原田マ
- 22日 同 後片付け、テント片付け 吉富匡 原田賢、若林、林武
- 6月21日（土）最大のイベント田植え祭が無事終わりました。雨の中、参加者の皆さまお疲れ様でした。参加者は 二俣瀬子ども会11名、保護者5名、先生方3名、里山自然観察隊隊員24名、保護者会員13名、当会27名の総勢83名で11時に終了し、引続いて膝癒しでおむすびを頂きました。その後合鴨の保護柵取り付けと田植え後の補植を行って田植え行事を完了しました。
- 6月21日（土）午後の「里山自然観察隊」の活動は、またまた雨の中での昆虫観察をしました。雨の中でもたくさんの昆虫を見つけました。隊員25名、保護者会員15名、会員スタッフ11名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎ 見学者
予定なし
- ◎ 行事
 - 6月30日（月）善和園による草刈ボランティア 30名参加 対応 原田マ
 - 7月5日（土）維持活動エコアップ （スゲ、ノイグサ、アサザ、ヒツジ草）
合鴨の放鳥
 - 7月19日（土）午前 駐車場の草刈り、池内浮島拡大作業、湿地帯エコアップ
午後 里山自然観察隊（田んぼの生き物）

3. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

今月はありません

4. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) 管 哲郎

はじめに

これまでは会員とは名ばかりで、年間行事にはほとんど参加せず、なんの為の会員だったのかという思いは常にありましたが、里山自然観察隊の担当として参加するうちに責任を痛感するようになりました。学術の識者ではありませんが、民間の写真家、研究者のはしくれの一人として、少しでも皆様のお役に立てればと、これまでに得た知識やトンボの姿を毎回のシリーズものとして披露させていただこうと思ったものです。

(1) タベサナエ (サナエトンボ科) *Trigomphus citimus tabei* ASAHINA,

1949

山口県内には17種のサナエトンボが生息していますが、その中でも一番早く出現するトンボです。早いものは3月下旬ごろより羽化を始めますが、県内ではおおむね4月上旬より羽化を始め、半ばには若い成虫の姿を見ることができるようになります。

体長は約4センチほどで小さくてかわいいトンボです。丘陵地の浅い小川や溜池などに多く見られます。県内全域に多く5月の連休ごろに最盛期を迎えます。

ビオトープでもたくさん見られますので、ぜひ探してみてください。



*県内でみられるサナエトンボ

ミヤマサナエ・ホンサナエ・ヤマサナエ・キイロサナエ・アオサナエ・
オナガサナエ・コサナエ・オグマサナエ・ダビドサナエ・クロサナエ・
ヒメクロサナエ・ヒメサナエ・オジロサナエ・コオニヤンマ・
ウチワヤンマ・タイワンウチワヤンマ

*日本で見られるその他のサナエトンボ

メガネサナエ・ナゴヤサナエ・オオサカサナエ・アマミサナエ・オキナワサナエ・
ヤエヤマサナエ・フタスジサナエ・モイワサナエ・ヒラサナエ・ヒロシマサナエ・
チビサナエ・オキナワオジロサナエ・ワタナベオジロサナエ・ヒメホソサナエ

5. 会員の声 (新会員 内藤武顕)

“えんぼとたんぼの始発駅” パートII 茜雲 (あかねぐも)

お地蔵さんのお膝に雨蛙が抱きついている。『雨を呼ぶなよ！今からビオトープをてくてく歩くからの』とあま蛙につぶやく。お地蔵さんのお口が少し微笑んだようだった。車地の水田は一面青くなり田植えの終わりを上げている。車地平野が蘇る。空は一面くもっている。薄い雲の上にぼんやり日が透けて見える。細い野道をビオトープの始発駅へと下り、須賀河内川第8の堰に行く。草原ゾーンからの水車の回る音と堰から落ちる水の音が心地よいハーモニーを作っている。空気の冷たい時期は流れの中に指先、手のひら、手首と順次に浸すが、今日は袖をまくり一気にひじまで小川に入れる。のど越しのビールのように腕に元気がしみる。突然、子供の明るい声が響いてくる。

白いTシャツ、赤いTシャツの自転車が2台、市道を走っているのが見える。子どもたちの行先はきっとあい鴨の里に違いない。幸いシューズは新調で軽い、木陰沿いに走ってみる。

緑の斜面から男の子と女の子の会話がきこえてくる。『おなかがいっぱいなんかねー しっぱぽっかり向けて』、女の子『きれいな草をちぎってやったら』、『こっちの草は甘いぞ、そっちの水はにーがいぞ』男の子の誘いにも鴨たちの反応は全くない。『アッ、鴨が一本足で立っている。可愛い』と女の子の声。『姉ちゃんもエサやって!』、姉は弟の要求を無視、鴨の観察に夢中。『姉ちゃん帰ろうや、もう帰る!』ふくれ面をして弟が土手を上がって来る。姉の方は池をふりかえりながら坂をゆっくりのぼって来る。『明日またこうね・・・』姉が弟の顔を見る。赤いTシャツは姉、白のTシャツは弟、赤白のTシャツ自転車が静かな道を仲良く走り去る。

一本足の鴨はいた。右足で立ち、左足はお腹にしまっている。下ろす気配はない。小柄で気位は高そうだ。顔は小づくり、首は細く長い。NHK大河ドラマ“篤姫”を連想する。よく見ればアイシャドーをつけた生島役の鴨が側にいた。さて・・・ “急いで帰ることもない”かとものおもいにふけりながら ふと空を見上げると薄い雲が茜色に染まっている。見下ろすと緑一面の池ゾーンに茜色のくもが映えている。そして、浮島には樹に草に風がそよいでいた。

雨蛙はまだいるだろうか? もう走れない。

6. 里山自然観察隊 (6月21日、隊員 25名、保護者 15名、会員 11名)

昆虫観察 (藤井 義晴 記)

今回は、トンボが7種類(19年度:17種類、18年度:13種類)、蝶が8種類(15種類、14種類)、バッタや甲虫他が13種類(18種類、15種類)他にもまだ、名前のわからないものあり。残念ながら、昨年、1昨年に比べると少ないのですが、雨降りの中、いろいろ捕まえてくるものです。全く感心します。多分初めての雨の中での実施でした。飛んでいる虫は少ないものの、雨を避けるため、葉の裏で休んでいる蝶や、雨の中を平気で飛んでいるイトトンボを観察でき、普段とはまた違った虫の姿を観察できました。なかなか、いい観察会でした。



トンボ	蝶	バッタ・甲虫など
【イトトンボ科】 キイトトンボ、クロイトトンボ、ベニイトトンボ、ムスジイトトンボ 【アオイトトンボ科】 アオイトトンボ 【モノサシトンボ科】 モノサシトンボ 【ヤンマ科】 ギンヤンマ	【シジミチョウ科】 ベニシジミ、ムラサキシジミ、ツバメシジミ、ヤマトシジミ 【シロチョウ科】 キタキチョウ 【セセリチョウ科】 オオチャバネセセリ 【タテハチョウ科】 ヒメジャノメ、ヒメウラナミジャノメ	【バッタ】 ツチイナゴ、キリギリス、ショウリョウバッタ、ナナフシ、カマキリ他 【甲虫】 コアオハナムグリ、セマダラコガネ、ラミーカミキリ、コガネムシ他 【カメムシ】 クモヘリカメムシ他
4科7種類	4科8種類	10種類以上

7. 会よりの連絡事項（事務局より）

新入会員の紹介

女性会員 西村敏子さん 二俣瀬区善和下 62-0228他メーリングリスト

男性会員 渡辺正雄さん 二俣瀬区善和石土路 62-0253他メーリングリスト

お二人とも里山ビオトープに非常に関心あって進んで会員になられた方です。今後の活躍を期待します。

8. 編集後記

先月から編集委員が5名増え、総勢11名となったが、先月の会報では最も重要な行事である「田植え」が記載されなかった。多くの目で確認しても、疑いの目で見えていないので、そこにあるものが正しいと皆信じていたのだろう。会員の皆様には申し訳ないと思っています。さて、ビオトープ関連の記事では、美濃和さんの植物が終わったが、今回から管さんのトンボの記事が始まった。多いに皆様の期待も高まろうかと思いますが、管さんには気楽に書いてもらおうと思っています。皆様にもご支援とご理解をよろしくお願いいたします。

（西原 一誠 記）